

## 第 14 回蕨の会「仙台真田氏を巡る旅」報告

◆はじめに 幹事からひとこと 宮原 豊（9 組、現役時代、仙台に勤務）

「仙台真田氏を巡る旅」を無事に終了し、ほっとしています。随分前から企画して、日程も皆さんのアンケートで決め、それが激しく変化する春の天候にこころしかないという二日間にドンピシャリ。おかげさまで、春と冬、満開の桜と雪吹雪を一度に経験することになりました。

浅倉さんの現場事前調査で、マイクロバスを借りようと思いつき交通関係もうまく運びました。車中で急遽、「船岡駅で途中下車して花見をしよう」と誰が言い出したのか、古希にして臨機応変に対応できる証明でした。また、バス会社の女専務さんの機転で我妻佐渡の墓碑にもスムーズにたどり着けたのは思いがけない嬉しい誤算でした。

さらに、皆さんにはサプライズにしておいた仙台在住の前山俊秀君（9 組）にも、浅倉君の伝手で連絡がつき、打ち上げ飲み会に参加してもらい、51、2 年ぶりに再会できたのは幸運でした。

◆ 1 日目（4 月 8 日）担当レポーター 沓掛文夫（3 組）

4 月 8 日（月）、大多数の人は東北新幹線 やまびこ 205 号に乗車し、白石蔵王駅へと向かった。東京始発から乗る人、上野乗車の人、大宮乗車の人それぞれであったが、真田六文銭にちなみ 6 号車 6 番近くの座席指定をとり歓談しながらの列車旅であった。

天候もよく、絶好の旅日和となった。白石蔵王駅では宮原豊君（9 組）手配のマイクロバスが出迎えてくれ、まず、当信寺にむかった。

当信寺は真田幸村（信繁）の五女阿梅（おうめ）の墓がある寺である。阿梅は片倉重綱の後添えとなり、天和元年（1681）に 78 歳で没したそうで、墓標は如意輪観音の石像ということである。

ここには幸村次男の大八（片倉守信）の墓もあるということであった。

この文章を書いている今となってはその石像、墓の記憶が定かではない。

その後、清林寺へと進んだ。清林寺は真田氏の譜代家臣の三井景国が幸村の遺子が託された縁で片倉家の家臣となり、その後、この三井氏が興した寺院である。寺紋として「六文銭」を使用している。寺門としての「六文銭」を確認できたことは感慨深いものがあった。そして白石城に廻り、天守閣に登ったが、桜が満開でもあり、眺めは絶景であった。

丁度昼ごろとなり、「やまぶき亭」で全員白石温麺（うーめん）の定食を頂いた。ソーメンに似ているが油を使用せず、長さもやや短い麺であった。出汁がよくきいており美味であった。

食後、田村家墓所へと向かった。幸村の九女阿菖蒲（おしょうぶ）が旧三春領主田村氏の後裔、片倉定広に嫁し、寛文 4 年（1664）に死去。田村家墓所に葬られた。その隣に幸村の墓碑と伝えられる無銘墓碑がある。駐車場から山道を登って行ったところでこの墓碑の拝観ができた。

その後、蔵王町曲竹の我妻佐渡の墓碑を訪れた。佐渡は三井景国の部下で幸村の子女が奥州に送られる際、その護衛を務めた人物であり、曲竹で暮らし、万治 3 年（1660）に没した。

この墓所は民家の敷地内にあり、バス会社の専務さんが交渉して下さり、拝見することができた。一同感謝。我妻家の屋敷は外からのみの拝観となった。

次に矢附真田の郷歴史公園で真田家子孫の墓などを見ることができた。

最後に白石駅まで送ってもらったが、この間、マイクロバスで非常に楽に各所廻りができ、幹事の宮原君、浅倉英樹君（4組）には感謝である。齢70歳、長く歩くのはきつい。

白石駅から仙台駅に向かう途中、車窓から「白石川堤一目千本桜」を期待しながら外を見てみると、堤防沿いに桜の古木の連なる美しい花々をみることができ感激一入であった。途中の船岡駅で一行の大部分は下車し、徒歩で楽しんだが、筆者は下車せず、仙台駅で皆を待った。

仙台駅から仙山線で作並駅に向かい、作並駅からはその夜宿泊する鷹泉閣・岩松旅館の送迎バスで旅館に向かった。一同部屋に落ち着き、広々とした温泉の浴槽に浸かり、1日の疲れを落とし、宴会場に臨んだ。仙台牛などいろいろの肴を食しながら、旅館の酒、持ち込みの日本酒、焼酎をたらふく飲み、夜は更けていったのであった。

#### ◆2日目（4月9日）担当レポーター 田村栄治（1組）

翌朝、作並温泉では「ざんざん降り」の雪でびっくりしましたが、バイキングの朝食で腹ごしらえして、旅館の送迎バスでニッカウヰスキー宮城峡蒸留所見学に向かいました。

雪は雨に変わりましたがとても寒かったです。女性ガイドさんの説明を受けながら、ウイスキーが出来上がる工程を見学できる約1時間のツアーに参加しました。

ビジターセンター入口では大きなポットスチル（蒸留器）がお出迎えしてくれました。

小さなシアターで「宮城峡蒸留所」の概要を動画で見るところから始まり、その後移動して、仕込み棟からもろみを発酵させた後、蒸留棟、貯蔵庫と回りました。

貯蔵庫には大量の樽が・・・！、ここには、熟成の香り体験コーナーがあり、1カ月熟成、5年熟成、12年熟成の樽から、蓋を開けて香りを嗅ぐことができました。

熟成が進むごとに色が濃くなり、ウイスキーの量が減っていくのが分かります。

減り方は年2%ずつとか・・・ということは単純計算で50年で100%・・・

最後の試飲体験コーナーでは3種類の銘柄を試飲して味の違いを楽しみ、お土産コーナーで各自買い物をして工場を後にしました。

作並から仙台駅に到着後、仙台市内を巡るバスに乗り仙台城跡を目指す途中、メンバーが一人不足しているというハプニングがありました。（遅れて合流）

仙台城跡は典型的な山城で眺めは良かったのですが、石垣のみで物足りなさを感じました。

予定の15時少し前に仙台駅前に戻り、幹事が予約してあった海鮮居酒屋で遅い昼食を兼ねた飲み会が始まりました。途中、地元在住の同期、前山君がサプライズ参加して大いに盛り上がり、楽しい2時間の宴となりました。

宮原、浅倉両幹事の事前調査と素晴らしい計画とで楽しい仙台真田史跡巡りが出来て感謝です。

◆おわりに 幹事からひとこと 浅倉英樹（4組、東北大学OB）

「蕨の会」では信州上田の雄である真田氏ゆかりの地を訪ねるツアーを企画し、2017年5月に昌幸、信繁（幸村）親子幽閉の地、和歌山九度山と大阪城を訪れた。

このたび、仙台真田氏に造詣の深い、宮原君を幹事に田村栄治（1組）、関賢治、上原昇（2組）、原田義則、沓掛文夫（3組）、成澤文和、丸山暢久、浅倉英樹（4組）、塩川明男（6組）、赤尾晴夫、塚田道明（9組）、岡田修、中山正光、山岸敏夫（11組）の総勢15名の参加で、大坂夏の陣後、伊達政宗、片倉景綱（小十郎）の庇護の下、東北に逃れた真田家末裔のゆかりの地を一泊二日で探訪した。

二日目は、ニッカウヰスキー工場見学後、仙台駅に戻り、青葉城址散策。

仙台駅近くでの懇親会は前山君の参加も得て、大いに盛り上がった。

（2019年4月15日記）

以下、写真集（8葉）です。

【写真1：当信寺の山門（国登録有形文化財指定）前にて】

左から宮原、中山、田村、山岸、丸山、原田、浅倉、関、上原、塩川、成澤、岡田  
沓掛、塚田、赤尾





【写真 2 : 満開の桜の白石城にて】



【写真 3 : 片倉家御廟所の石仏群】





【写真 4 : 白石川堤の一目千本桜】



【写真 5 : 作並温泉での懇親会】

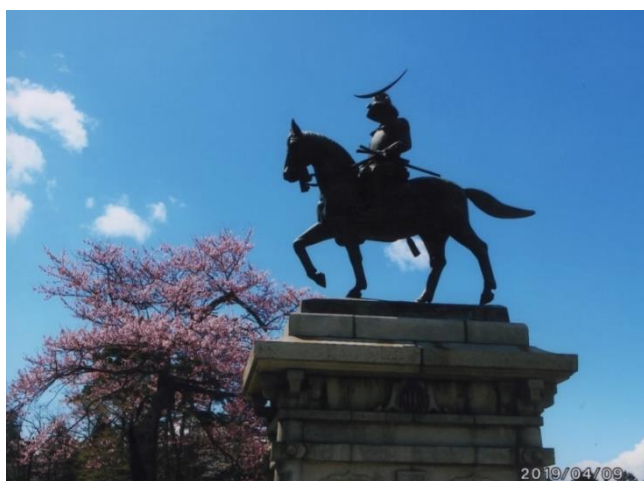




【写真 6 : ニッカウヰスキー宮城峡蒸留所見学】



【写真 7 : 仙台城、伊達政宗騎馬像】



【写真 8 : 打ち上げの懇親会、左から 3 人目宮原君の右後ろ隣が前山俊秀君 (9 組)】

